

平成30年度 強度行動障害者地域生活サポート事業② 研修報告

テーマ：『危機介入セラピューティックホールド
～安心安全な暮らしを目指して～』
講師：社会福祉法人 旭児童ホーム 主任 平本 譲 氏
日時：平成30年11月29日(木) 15:30～18:00
場所：社会福祉法人かながわ共同会津久井やまゆり園
芹が谷園舎 体育館



先月に引き続き、県域及び地域の事業所、法人職員の支援力向上を目的として、強度行動障害地域生活サポート事業(神奈川県強度行動障害対策研修)を開催いたしました。講師として、千木良時代から毎年セラピューティックホールド研修で支えていただいている、社会福祉法人旭児童ホーム主任平本譲氏をお迎えしました。合計46名(外部23名、園内23名)の方が参加され、とても有意義な研修となりました。

はじめに、ウェルビーイング(すべての人の幸福追求)について話がありました。果たして利用者様は、この施設を利用できてきてよかった、この職員に出逢えてよかった、生きていてよかったと感じているのだろうかという投げか

けがありました。人は大切にされた経験があってこそ、人を大切にできるという話がありました。この考え方は、意思決定支援に通じるものがあり、利用者様一人ひとりのことを大切に想いながら「どんなことが好きだろう、どんなことでワクワクするのだろう」とチームで話し合い共有していくことは、意思決定支援の礎になると思われます。併せて、このような考え方を共生社会の実現に向けて、発信していく役割も求められているように感じました。

実際の支援についての講義では、支援の基本である安心・安全・安定が支援のカギとなり、行動障害を未然に防ぐことにもつながるとの話が印象的でした。問題理解の仕方として、応用行動分析を噛み砕いてわかりやすく説明をしていただきました。

また、パニック時の最終的な手法として、セラピューティックホールドについて説明がありました。一人で対応しないこと、懲罰的に用いてはならないことについての説明後、実践を行ないました。参加者の皆様には貴重な体験だったようで、会場は大いに盛り上がり質問も多く上がっていました。

研修を通じて、危機介入の方法を学ぶことでお互いの身を守ること、福祉社会を実現していくうえで原則となる考え方などとても勉強になりました。日々の利用者様の行動からニーズを把握し、一人ひとりにとって安心・安全・安定した暮らしに発展させていけるよう、背中を押しいただいたような温かい内容でした。